

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號五第 卷四第

行發日一月五年六正大

論說

經濟的行爲と道德的行爲との關係(一).....	法學博士 田島錦治
奢侈税ノ辯難.....	法學博士 神戸正雄
きんぐノ法則と米麥價.....	法學士 河田嗣郎
經濟心理學ノ組織的研究(四、完).....	米田庄太郎
支那經濟思想ノ出發點(二、完).....	法、文學士 小島祐馬

時事問題

貿易ニ對スル金融ノ改善.....	法學博士 戶田海市
支那關稅引上と日本ノ紡績業.....	法學博士 神戸正雄

雜錄

米國ノ海外放資力.....	法學博士 神戸正雄
獨領植民地ノ處分問題.....	山本美越乃
移民と米國ノ勞働.....	米田庄太郎
米國聯邦農地貸附法.....	法學士 河田嗣郎

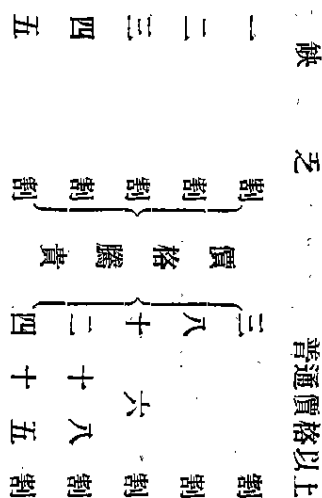
きんぐノ法則ト米麥價

河田 嗣 郎

穀物ノ價格ニ關スル研究ヲ爲スニ當リテハ、所謂きんぐノ法則ナルモノハ、古クヨリシテ常ニ採用セラルル所タリ。而シテ其ノ所謂きんぐノ法則ナルモノハ、人ノ好ク之ヲ知ルガ如ク、穀物ノ供給量ノ多寡ガ穀價決定ノ上ニ及ボス影響ノ程度ニ就キテ立セラレタル數式ニシテ、英國統計學ノ鼻祖トモ見ヘテ得可キ Gregory King 氏ガ一六九六年ニ完成シタル、英國ノ人口及ビ通商ニ關スル統計的研究 Natural and Political Observations and Conclusions upon the State and Condition of England 中ニ含まルトセララルル所ナルガ、此書ハ晉テ氏ノ名ニ依リテ公刊セラレタルコトナク、唯々 Charles Davenant L. L. D. 氏ガ其ノ内容ニ從テ之ヲ Essay upon the Probable Methods of making a People gainers in the Balance of Trade (London, 1699) トシテ公ニシタルモノニ依リテ、吾等ハ之ヲ知ルヲ得ルニ過ギザル也。仍テ今 Davenant 氏ノ示ス所ニ依リテ穀物ノ供給量ト價格トノ間ニ存スル法則的關係ナルモノヲ見ルニ、實ニ左ノ如キモノアリ。氏ノ言葉ヲ其儘ニ譯シテ

セバ

『吾人ハ、收穫量ニ於ケル缺乏ハ穀價ヲシテ次ノ如キ割合ニ於テ騰貴セシムルモノナリト爲スヲ得



カルガ故ニ穀價ガ普通價格(平價)ノ三倍ニ騰貴スルニ於テハ、吾人ハ、普通收穫(平作)ノ三分一以上ヲ缺乏スルモノト見ルヲ得可ク、若シ吾人が五割ヲ缺乏スルニ於テハ、即チ平年作ノ半ヲ缺グニ於テハ、價格ハ平價ノ五倍ニ近キ騰貴ヲ爲ス可キ也。』

此ノ法則ハ後ニ Stanley Jevons 氏ニ依リテ更ニ精密ナル數式ニ造リ上ゲラレタルガ、氏ハ先ヅ之ヲ右ノ儘ニシテ唯ダ其形ヲ變ヘテ次ノ如クニ示シ

穀物ノ量……………1.0 2.5 5.0 7.5 10.0

1) An Essay upon the Probable Methods of making a People gainers in the Balance of Trade, London 1699, Kyoto-imp.-Univ. Lib. book BI 4-15, No. 158770, p. 83)

價格……………一〇 一三 一八 二六 三二 三九

扱テ此ノ關係ハ之ヲ $\frac{a}{(x-1)^2}$ 式ノ函數ニ依リテ示スヲ得ルモノト爲シ、然カモ n ハ殆ンド 2 ニ等シク、之ヲ正確ニ 2 ナリトスレバ a 及 b ノ値ハ $a \parallel 824$ $b \parallel 13$ ナル可キヲ見、斯クテ即チ右ノ式ヲバ次ノ如クニ示セリ。

$$\text{穀物ノ價格} = \frac{824}{(x-1)^2}$$

$$\text{即チ殆ンド } F = \frac{5}{6(x-\frac{1}{2})^2}$$

今此式ニ依リテ算出セル所ト右 Davenant 氏ノ示セル所トヲ比較スレバ

收穫……………	一〇	一三	一八	二六	三二	三九
價格 (Davenant) ……	一〇	一三	一八	二六	三二	三九
價格 (Jevons) ……	一〇	一三	一七	二二	二八	三三

トナリ、兩者ノ間ニ餘リ大イナル區別ノ認ム可キナキナリ。故ニ Jevons 氏ハ彼ノ經驗的ナル數式ハ之ヲ此ノ數式ニ造リ變フルニ於テ大過ナキモノト爲セリ。²⁾

然ルニ右ニ示ス所ニ依リテ明カナルガ如ク、Davenant 氏ノ計算ト Jevons 氏ノ計算トニハ多少ノ差異アリ、後者ノ式ハ前者ノ式ニ對シテ 0.06 バカリ多キニ過ヅルガ故ニ、今ヤきんぐノ法則ナルモノハ、右 Jevons 氏ノ式ヲ修正シテ

$$\text{價格} = \frac{0.824}{(x-0.12)^2} - 0.06$$

トシテ用ヒラルルヲ例トス。³⁾ 而シテ此式ニ從ツテ穀物ノ收穫量ヲ價格 w トノ關係ヲ示セバ、實

2) W. S. Jevons, Theory of Political Economy 4th. ed. London 1911, p. 154-158.
 3) Prof. L. Brentano, Die deutschen Getreidezölle, 2. Aufl. Stuttgart und Berlin 1911, S. 20, Anm. 2.

ニ左ノ如キモノトナル也。

收斂量	價 格	收斂量	價 格	收斂量	價 格	收斂量	價 格	收斂量	價 格
0.5	3.65	0.96	1.44	0.95	1.14	1.04	0.91	1.13	0.75
0.6	3.52	0.97	1.40	0.96	1.11	1.05	0.89	1.14	0.73
0.7	2.89	0.88	1.37	0.97	1.03	1.06	0.87	1.15	0.72
0.80	1.72	0.89	1.33	0.98	1.15	1.07	0.85	1.16	0.70
0.81	1.67	0.90	1.30	0.99	1.03	1.03	0.83	1.20	0.65
0.82	1.62	0.91	1.26	1.00	1.00	1.09	0.82	1.30	0.53
0.83	1.57	0.92	1.23	1.01	0.93	1.10	0.80	1.40	0.44
0.84	1.53	0.93	1.20	1.02	0.95	1.11	0.78	1.50	0.37
0.85	1.49	0.94	1.17	1.03	0.93	1.12	0.76	2.00	0.17

二

關扱テ進ムデ、右ノ如キ法則ガ之ヲ實際上ノ事例ニ當儀メテ果シテ的確誤リナキモノナルヤ否ヤニ就キテ攷フルニ、Jevons 氏ノ記ス所ニ依レバ Tornton 氏 (An Inquiry into the Nature and Effects of the Paper Credit of Great Britain, pp. 270, 271) ノ如キハ、之ヲ以テ頗ル不正確ノモノト爲シ、穀物ノ供給量ノ不足ト云フ場合ニハ、或年一年ニ於ケル收穫ニ就キテ云フモノナルカ、將又穀物ノ全貯藏量ニ就キテ之ヲ云フモノナルカモ明カナラズト爲セリ。⁴⁾ 然ルニ Took 氏ノ如キ

4) W. S. Jevons, *ibid.*, p. 156.

ハ、此ノ計算ハ英國ニ於テ小麥ノ收穫ガ平年作ノ六分一乃至二分一以上ノ不足ヲバ呈セザリシ時ニ於テスラ、價格ハ百「パーセント」乃至二百「パーセント」以上モ騰貴シタル事實ニ鑑ミレバ、餘リ多ク眞實ト相違セルモノニアラズト爲セリ^{c5)}

更ニ下リテハ Conrad 教授ハきんぐノ法則ハ經驗的ニ其ノ當ラザルコトノ證明セラレタリトテ之ヲ排斥シ、又「e.g.s.」教授モ此ノ法則ハ現今ノ交易狀態ノ下ニ於テハ最早適用ナキモノト爲セリ^{d)} 兎モ角きんぐノ法則ハ、穀物ノ供給ガ尙ホ一國內ニ限ラレ、國際的市場ノ未ダ發達セザリシ時代ニ編ミ出サレタルモノナレバ、此ノ法則ガ生産及ビ交易狀態ノ著シク發達セル現今ノ世界市場ニ於テモ尙ホ依然トシテ其ノ適用アルモノナルヤ、多少其ノ適用上ニ修正ノ施サレザル可ラザルヤ、將又モハヤ全ク其ノ適用ナキモノナルヤニ就キテハ、十分精密ナル研究ノ試ミラレザル可ラザルモノアリ。而シテ先ヅ第一ニ考ヘラレザル可ラザルコトハ、一國ノミニ就キテ之ヲ見ルモ、年々ノ穀物收穫量ヲ知ルハ餘リ困難ナラズトスルモ、其ノ現在ノ總貯藏量ヲ知ルコトハ決シテ容易ノ業ニ非ザルニ、今若しきんぐノ法則ヲ世界市場ニ涉リテ考フルモノトスル場合ニハ、全世界ニ於ケル供給量トシテ、全世界ノ穀物貯藏量ヲ知ラザル可ラザル次第ナルガ、是ハ殆ンド不可能事ニ屬スト云ハザル可ラズ。次ニ又、現今ノ世界的市場ニ於テハきんぐノ時代ニ於ケルガ如ク、貯藏量及ビ從テ生ズル價格ノ上ニ斯カル著大ナル變動ノ生ゼムコトハ先ヅ甚ダ稀ナリト見ザル可ラザ

5) a.) Jevons, *ibid.* p. 156.
b.) Took und Neumarch, *Geschichte und Bestimmung der Preise*, deutsch von C. W. Asher, Dresden 1862. S. 5.
6) Prof. J. Conrad, Art. „Getreidepreise“ im *Hwb. f. Stw.* III. Aufl. Bd. IV. S. 801.
7) Prof. W. Lexis, *Die Wirkung der Getreidezölle*, Tübingen 1889, S. 5

ルモノアリ。蓋シ小麥ニ就イテ之ヲ見ルガ如キ方今ノ世界市場組織ノ下ニ於テハ、全世界ニ渡ル凶作ノアラザル限り、一國內ニ於ケル供給ノ不足ハ、直チニ容易ニ他國ノ餘剩ヲ以テ之ヲ補フヲ得、之ヲ世界市場全體ヨリ見テ、常ニ完全ナリト云フ可ラザル迄モ兎モ角モ大ニ整ヘル需給關係ノ平均的狀態ヲ見ルヲ例トスルヲ以テナリ。唯然シ我國ノ内國産米穀ノ如ク其ノ需給ガ國內ニ限局セラレ、市場狭キモノニアリテハ、小麥ニ於ケルヨリモ國內ノ作柄ノ良否ニ因ル價格變動ノ割合ハ多大ナルモノアルヲ否ミ難シ。

仍テ吾人ハ以下茲ニ少シク先ヅ小麥ニ就キテきんぐノ法則ノ近時ニ於ケル適用ノ當否ヲ檢シ、次ニ我國ノ米穀ニ就キテノ適用奈何ヲ見ント欲ス。

三

きんぐノ法則ノ示ス所ト、實際上ニ於ケル小麥市價ガ其ノ供給量ニ對シテ有スル關係トヲ兩々比較シテ、以テ、きんぐノ法則ナルモノガ近時ノ小麥價格ノ實際上ニモ尙ホ適用アリ能ク之ニ當徴ルモノナリヤ否ヤヲ檢スルニ就テハ、Dr. Curt Borchard 氏頗ル綿密ナル講究ヲ試ミタリ。即チ氏ハ世界市場ニ於ケル小麥ノ價格及ビ收穫ニ關スル統計ト、きんぐノ法則ノ要求スル所ノ價格及ビ收穫ノ關係トヲ比較シ、其ノ講究ノ結果ニ照シきんぐノ法則ナルモノハ其ノ當時ニ在リテハ

實際ニ適合シタルヤ否ヤヲ知ル可ラザレドモ、少クトモ現時ニ在リテハ其ノ正確ナルヲ主張シ難キモノナルヲ立證シタリ。⁸⁾

氏ハ一八八三—一九〇九年ニ至ル實狀ニ就キテ右ノ檢究ヲ試ミタルガ、King 及 D'avenantノ所謂平常ノ收穫ナルモノニ就キテハ、世界ニ於ケル穀物生産ノ不斷ノ増加及ビ技術ノ進歩ニ因ル同一面積ヨリノ收穫量ノ増加ヲ顧慮スル所ナカル可ラザルヲ思フ所ヨリシテ、此ノ期間ヲ多數ノ小期間ニ分割シタリ。而シテ又氏ハ年々ニ於ケル價格ノ高低ハ其年ノ收穫量ノミニ依リテ支配セラルルニ非ズシテ、從來ノ貯藏量及ビ來ル可キ收穫豫想ニ依リテ影響セラルル所多大ナルモノナレバ、きんぐノ法則ハ之ヲ各年ニ就キテ當筈メ得可キモノニ非ズト爲シ、各二ケ年ニ就キテ其ノ收穫ノ平均ヲ取リ、之ヲ其ノ屬スル期間ノ平均收穫トノ關係ノ下ニ置クニ於テ、稍々正確ナルヲ得可シト爲セリ。茲ニ於テきんぐノ法則ノ數式中ニ於ケル收穫量ヲ示ス所ノ x ハ

$$\frac{\text{連續セル二ケ年ノ平均收穫量}}{\text{當該期間ノ平均收穫量}} = x$$

ト爲ス可キモノトセリ。從テ又之ニ相當ス可キ實際ノ價格即チ式中ノ y モ

$$\frac{\text{連續セル二ケ年ノ平均價格}}{\text{當該期間ノ平均價格}} = y$$

タラザル可ラズトセラルル也。而シテ此ノ實際ノ價格ガ方式中ノ x ニ右ニ上ゲタル y ヲ當筈メ

8) Dr. C. Borchard, Die Wirkung der Getreidezölle auf die Getreidepreise, mit einem Anhang: Die Gregory Kingsche Regel. Berlin 1913.

テ割出シタルモノ(即チきんぐノ法則ノ要求スル價格)ト一致セザルニ於テハ、其ノ材料タル數字ニ誤謬ナキ限り、きんぐノ法則ハ現時ノ狀態ノ下ニ於テハ其ノ正確ナルヲ云ヒ得可ラザルモノトスルノ外ナキ也。同様ノ理ニヨリ實際ノ收穫量タルモノガ式中ノリニ右ニ上ゲタルモノヲ當徴メテ逆ニ之(即チきんぐノ法則ノ要求スル所ノ收穫量)ヲ算出シタル所ノモノト一致セザルニ於テモ亦、きんぐノ法則ハ現時ノ實狀ニ合ハザルモノタルヲ知ルニ足ル可シ。仍テ今之ヲ Porcland 氏ガ小麥ニ就キテ試ミタル檢究ニ照シ見ルニ、氏ハ種々ノ事情ヲ考慮シタル上ニ於テ、一八八三—一九一一年ヲ以テ第一期ト爲シ、一八八三—一九七年ヲ第二期トシ、一八九六—一九〇一年ヲ第三期、一八九八—一九〇五年ヲ第四期トナセリ。

先づ第一期ニ就キテ見ルニ、其ノ期間ノ平均收穫量ハ五千八百萬噸ニシテ、平均價格ハ「クオーター」ニ付キ三四志ナリ。而シテ此ノ期間ニ於ケル穀物商業ノ實際狀態ハト見レバ、亞米利加ニ於ケル小麥生産ノ大イニ増加シ來リタルガ爲メニ、漸ク變化セントシ、穀價ハ一八八二年以來漸次下落ニ向ヒタレドモ、然カモ其間餘リ著大ナル收穫上ノ變動ナカリキ。斯クテ此ノ第一期ニ於ケル實際ノ收穫及ビ價格ノ關係トきんぐノ法則ニ從ヘバ正ニ然ラザル可ラザル所ノ關係トノ對照左表ノ如シ。⁹⁾

9) ditto. S. 45.

各年次	收穫量	平均價格	數	年次	平均收穫	平均價格	收穫歩合	價格歩合	きんぐノ法則ノ要求スル所
一八八三	五	四三	一八八三—八四	五	五	101	113	0.92	0.92
一八八四	六	五	一八八四—八五	五	五	100	100	100	100
一八八五	五	五	一八八五—八六	五、五	三	0.92	0.92	111	100
一八八六	五	二	一八八六—八七	五	三	0.92	0.92	100	101
一八八七	六	三	一八八七—八八	五、七	三	101	0.92	0.92	100
一八八八	五	三	一八八八—八九	六	三	100	0.92	0.92	100
一八八九	五	三	一八八九—九〇	五	三	101	0.92	0.92	100
一八九〇	五	三	一八九〇—九一	五	三	0.92	0.92	100	100
一八九一	六	三		五	三	101	0.92	0.92	101
一八八—九一	五	三	一八八三—九一	五	三	100	100	100	

今此表ヲ檢スルニ、實際ノ收穫及ビ價格ノ歩合上ノ關係トきんぐノ法則ノ要求スル所トハ、殆ンド一致スルモノナク、唯僅カニ一八八六—八七年及ビ一八八七—八九年ニ於テ、兩者ノ稍々相似タルモノアルニ過ギズ。

次ニ一八九一年以後一九〇一年ニ至ル十年間ニ就キテ見ルニ、其間ニ於ケル穀物市場ノ狀況ハ北米合衆國ノ生産ノ大ニ増加シ來リタルガ爲メニ、著大ナル變化ヲ生ジ、小麥ノ價格ハ未曾有ノ下落ヲ爲シタリ。即チ一八九二年ニハ「クオーター」ニ就キ二十志ニ、一八九三年ニハ二六志ニ、一八九四年ニハ二三志ニ下落シタリ。之レ併シ乍ラ、一八九三年ニハ又あるせんちん及ビ印度

ノ生産ノ大イニ増加シタルニ加ヘテ、露西亞ノ生産モ大ニ豐穰ナリシト、一八九四年ニハ各生産國何レモ豐作ニテ、年來ノ貯藏量モ亦少カラズ、爲メニ供給大イニ過剩ヲ告ゲタルニ由ラズンバ非ザル也。此ノ状態ハ一八九六年ニ於テ稍々恢復ニ向ヒ、一八九七年ニハ亞米利加ハ相當ノ作柄ナリシモ、露西亞ト印度トノ凶作ナリシタメ、價格ハ頗ル持直シタリシガ、又其ノ翌年諸生産地豐作ナリシタメ價格ハ其年ノ終リ頃ヨリシテ大下落ニ向ヒ、一九〇一—二年ニ至リテ稍々回復スルヲ得タリ。兎モ尙此ノ時期ハきんぐノ法則ノ當否ヲ檢スルニハ頗ル面白キ時期タレドモ、之ヲ一期間トシテ取扱ハジハ、其間ニ大豐作ノ年多クシテ其ノ平均收穫量ノ餘リニ大トナリ、所謂平常ノ收穫トシテ之ヲ見ルニ、多少ノ不都合ヲ感ズル次第ナレバ、Borchard氏ハ第二期トシテハ、之ニ第一期ヲ加ヘテ一八八二—一九七年ヲ取ルコトトセリ。斯クスルニ於テハ、其平均收穫量ハ六千四十萬噸トナリ、其ノ平均價格ハ三十一志トナル也。第一期ノ例ニ倣ヒ之ヲ表示スレバ左ノ如シ。¹⁰⁾

各年次	收穫量 <small>百萬噸</small>	平均價格	數	年次	平均收穫 <small>百萬噸</small>	平均價格	收穫歩合	價格歩合	きんぐノ法則 ノ要求スル所
一八八三	五九	四三	一八八三—一八八四	五九	五九	三三			
一八八四	六六	四五	一八八四—一八八五	五八	五九	三三			
一八八五	五九	四三	一八八五—一八八六	五九	五九	三三			
一八八六	五九	四三	一八八六—一八八七	五九	五九	三三			
一八八七	六六	四五	一八八七—一八八八	六〇	五九	三三			
一八八八	五九	四三	一八八八—一八九〇	五八	五九	三三			
一八八九	五九	四三	一八八九—一九〇〇	五九	五九	三三			

10) ditto, S. 48.

一八九〇	英	三三	一八九〇—一九一	英	三四・五	0.74	1.11	1.33	0.74
一八九一	六〇	三七	一八九一—一九二	六二・四	三四・五	1.01	1.0x	0.74	0.74
			一八九〇—一九二	KOM	三三	1.00	1.0x	1.00	0.74
一八九二	五〇	三〇	一八九二—一九三	六四	六六	1.0x	0.70	0.7x	1.0x
一八九三	五五	二六	一八九三—一九四	六五・五	三三	1.10	0.70	0.70	1.10
一八九四	六六	二三	一八九四—一九五	六七	三三	1.11	0.70	0.7x	1.1x
一八九五	六六	二三	一八九三—一九五	六六・三	三四	1.0x	0.70	0.7x	1.10
一八九六	五五	二六	一八九五—一九六	六五・五	三四・五	1.0x	0.70	0.7x	1.10
一八九七	五〇	三〇	一八九六—一九七	六二	六六	1.01	0.70	0.7x	1.0x
一八八七—九七	KOM	三三	一八八三—一九七	KOM	三三	1.00	1.00		

此表ニ就キテ見ルモ、收穫ト價格トノ歩合上ノ關係ニ於テ、實際狀態ガきんぐノ法則ニ一致スルハ、タダ一八九三—一九四年アルノミニシテ、他ハ何レノ年モ之ニ合セズ、一八九二—一九三年ノ下落ニ際シテハ實際狀態ハきんぐノ法則ノ要求スル所ニ及バズ、一八九四—一九五年ノ下落ニ於テハ實際ハ却テ法則ノ示ス所ヨリモ過ギタリ。總ジテ之ヲ云ヘバ、一八九〇年代ニ於ケル生産ノ大増加ハ、きんぐノ法則ノ要求スル所ヨリモ、更ニ大イナル價格下落ヲ齎シタリ。

總テ右ノ如キ考慮ノ下ニ Bocharoff 氏ガ第二期以下ニ就キテ檢セル所、之ヲ一纏ニシテ表示スレバ左ノ如キモノアリ。¹¹⁾

第三期 (一八九六—一九〇一年)

年次	收穫量	平均價格	數	年次	平均收穫	平均價格	收穫歩合	價格歩合	きんぐノ法則ノ要求スル所
一八九六	百萬噸	志	六五	一九〇一	百萬噸	志	六二	0.7x	1.00
				一八九六—一九七			六二	0.7x	1.00

論 說

きんぐノ法則ト米麥價

第四卷 (第五號)

四九

六六九

11) ditto, S. 50, 52, 53

況ニ於テ頗ル人ノ注意ヲ惹ク所ハ、收穫ノ豊凶ニ依ル穀物貯藏量ノ變化ハ、其ノ價格ノ上ニ影響ヲ及ボスコト割合ニ緩漫ニシテ、然カモ一ト度之ヲ及ボセバ、稍々長引キテ其尾ヲ引クノ傾向アルコト之ナリ。

四

右ハ世界的取引ノ行ハルル小麥ニ就キテノコトナルガ、然ラバ扱テ翻テ我邦ノ米穀ニ關シテハ、きんぐノ法則ハ其ノ適用アル可キヤ否ヤ。我國ノ米穀ハ之ヲ小麥ニ比スレバ、其ノ取引ノ市場狭ク、謂ハバ我が國內ヲ限リテ市場トナスモノニテ、而カモ國內ノ需要ト生産トハ現今略ボ相掩ヒ、豊作ノ場合ニ於ケル輸出モ餘リ多カラズ、凶作ノ場合ニ於ケル輸入モ亦之ヲ總供給量ニ對スル割合ヨリ見レバ決シテ大ナリト云フ可ラズ。サレバ若シきんぐノ法則ナルモノガ、小麥ノ取引市場ガ昔時ニ於テ一國內ニ限ラレタル場合ニハ眞ナリシモ、今ヤ其ノ取引市場ノ擴大シ世界的トナリタルノ故ヲ以テ、モハヤ適用ナキモノトナリタリト云フ次第ナラバ、我國ノ米穀ニ關シテハ、現今ニ於テモ尙ホ依然トシテ其ノ適用ナカル可ラザル筈ナリ。我國ニ於ケル米價ガ其ノ生産量ニ對スル關係ハ、略ボきんぐノ法則ノ示ス歩合關係ヲ有セザル可ラザル筈ナリ。仍テ吾人ハ試ニ左ニ Borchard 氏ガ爲シタルト同ジ方法ニ依リテ、きんぐノ法則ガ果シテ米價ニ關シテ其ノ適用アルヤ

否ヤヲ檢セント欲ス。

此ノ檢究ヲ爲スニ當リテハ、吾人ハ、我國ノ米價ノ上ニ各々新時期ヲ劃シタル日清及ビ日露ノ兩戰役ノ時ヲ以テ區劃ト爲シ、日清戰前ノ十年ヲ以テ第一期ト爲シ、兩戰役間ノ十年ヲ以テ第二期ト爲シ、日露戰役以後大正三年ニ至ル迄ヲ第三期ト爲シ、以テ其ノ各期間ニ就キテ實際ニ於ケル收穫ト價格トノ歩合關係ト、きんぐノ法則ノ要求スル所ノ歩合關係トヲ、對比シテ示スコトトス可シ。(表中米一石ノ平均價格ハ東京正米卸賣標準相場ヲ示スモノナリ。)

第一期 (自明治十九年至二十八年)

年次	收穫量 百萬石	平均價格 円	數年次	平均收穫量 百萬石	平均價格 円	收穫歩合	價格歩合	きんぐノ法則 ノ要求スル所
明治一九一〇	四〇	五、八六	一九一〇	四〇	五、八〇	0.98	0.98	1.01
一九一〇	四〇	五、八六	一九一一	四〇	五、八四	0.98	0.97	1.01
一九一一	四〇	五、八六	一九一二	四〇	五、八四	0.98	0.97	1.01
一九一二	四〇	五、八六	一九一三	四〇	五、八四	0.98	0.97	1.01
一九一三	四〇	五、八六	一九一四	四〇	五、八四	0.98	0.97	1.01
一九一四	四〇	五、八六	一九一五	四〇	五、八四	0.98	0.97	1.01
一九一五	四〇	五、八六	一九一六	四〇	五、八四	0.98	0.97	1.01
一九一六	四〇	五、八六	一九一七	四〇	五、八四	0.98	0.97	1.01
一九一七	四〇	五、八六	一九一八	四〇	五、八四	0.98	0.97	1.01
一九一八	四〇	五、八六	一九一九	四〇	五、八四	0.98	0.97	1.01

論說 きんぐノ法則ト米麥價

第四卷 (第五號 五三) 六七三

13) 農務彙纂第五拾卷「米ニ關スル調査」二八・二九頁及一五六—七頁ノ材料ヨリ作ル

第二期 (自明治二十九年至三十八年)

年次	收穫量	平均價格	數年次	平均收穫	平均價格	收穫歩合	價格歩合	きんぐノ法則ノ要求スル所
明治二九	三三	九七	二九一三〇	三三	1070	0.88	0.88	1.03
同 三〇	三三	一七	三〇一三一	三三	1070	0.88	1.03	1.04
同 三一	三三	一八	二九一三一	三三	1070	0.88	1.03	1.01
同 三二	三三	一八	三一三二	三三	1070	0.88	1.01	1.05
同 三三	三三	一八	三一三三	三三	1070	0.88	1.01	1.03
同 三四	三三	一八	三三三三	三三	1070	0.88	1.01	1.01
同 三五	三三	一八	三四一三五	三三	1070	0.88	1.00	1.00
同 三六	三三	一八	三五一三六	三三	1070	0.88	1.00	0.99
同 三七	三三	一八	三六一三七	三三	1070	0.88	1.01	0.98
同 三八	三三	一八	三七一三八	三三	1070	0.88	1.01	0.98
二九一三八	三三	一八	二九一三八	三三	1070	0.88	1.00	1.00

第三期 (自明治三十九年至大正三年)

年次	收穫量	平均價格	數年次	平均收穫	平均價格	收穫歩合	價格歩合	きんぐノ法則ノ要求スル所
明治三九	三三	一七	三九一四〇	三三	1070	0.88	0.88	1.03
同 四〇	三三	一七	四〇一四一	三三	1070	0.88	0.88	1.00
同 四一	三三	一七	三九一四一	三三	1070	0.88	0.88	1.01
同 四二	三三	一七	四一四二	三三	1070	0.88	0.88	1.04
同 四三	三三	一七	四一四三	三三	1070	0.88	0.88	1.04
同 四四	三三	一七	四三三四	三三	1070	0.88	0.88	1.04
大正一	三三	一七	四四一	三三	1070	0.88	0.88	0.98
大正二	三三	一七	四四一	三三	1070	0.88	0.88	0.98
大正三	三三	一七	四四一	三三	1070	0.88	0.88	0.98

同	11	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120
同	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132
三九一	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四

右三表ノ示ス所ニ照シテ之ヲ見ルニ、實際ニ於ケル收穫及ビ價格ノ歩合關係ト、きんぐノ法則ノ要求スル所ノ歩合關係トノ、稍々適合シ若クハ當ラズト雖モ遠カラザルモノヲ求ムレバ、第一期ニ於テハ明治二十二—二十三年ノ平均ガ唯一ノ場合ニシテ、第二期ニ於テハ三十一—三十一年、三十四—三十五年、三十二—三十六年ノ三場合アリ。即チ此ノ兩時期特ニ第二期ニ於テハ稍々其ノ適中セル場合ヲ見出シ得レドモ、第三期ニ至リテハ兩者ノ關係ハ全ク相出會ハズ、殆ンドきんぐノ法則ノ事實ラシキヲ思フ能ハザルノ有様ナリ。

要スルニ右ノ試験的講究ノ示ス所ハ、我國ノ米穀ニ關シテモ亦、小麥ニ關シテ先ニ示シタル所ト、其ノ結果ニ於テ似タルモノアリ、實際ノ關係トきんぐノ法則ノ要求スル所トノ相契合セザル場合ノ餘リニ多キガ爲メニ、遇々其ノ契合ヲ見ルニ二三ノ場合ハ、所詮遇然ノ契合ト見ルノ外ナシ。從テ結論トシテ吾人ハ、きんぐノ法則ナルモノハ、其ノ當時ニ在リテハ事實ニ合シタルモノナルヤ否ヤヲ知ラザレドモ、現今ノ狀態ノ下ニ於テハ、殆ンド其ノ真ナル所以ヲ確ムルニ由ナキヲ思ハザルヲ得ザル也。

然レドモ Porchard 氏ノ用キタル數式ハ、所謂平常ノ收穫即チ普通ノ作柄ナルモノヲ定ムルコ

ト餘リニ任意的ニシテ、決シテ理論的ニ正確ナルモノト云フ可ラズ。任意ニ或數年若クハ數十年ヲ取リテ一時期トナシ、其ノ期間内ノ各年ノ收穫ノ平均ヲ取リ、之ヲ以テ其ノ期間内ニ於ケル平常ノ收穫ト看做セルコトハ、十分精密適確ナル取扱方ト云フヲ得可カラザル也。從テ吾人ガ日清日露ノ兩戰役ヲ區劃ト爲シ、其ノ前後各十年ヲ取リテ各一期トナシ、其ノ期間内ノ收穫ノ平均ヲ取リテ以テ其ノ期間内ニ於ケル平常ノ收穫ト爲シタルモ、唯之レ Bocharad 氏ノ算式ト同ジ方法ヲ以テ、氏ガ小麥ニ就キテ爲シタル所ヲ、米ニ就キテ試ミ、兩者ヲ比較シテ示スコトノ意味アルヲ思フニ由リテ然ルモノタルニ外ナラザルナリ。兎モ角右ニ示ス所ノ如ク、幾年カノ收穫ノ平均ヲ以テ平常ノ作柄ト爲スニ於テハ、穀物收穫ノ年々ニ増加シツツアルコトノ數字的ニ立證セララルル狀態ノ下ニ於テハ(我國ノ米產額ノ如キ特ニ然リ)、同一期間内ニ在リテモ、初ノ部分ノ年ニハ凶作多ク終リノ方ノ年ニハ豐作多キ數字上ノ結果ヲ見ルコトナリ、事實ト合致セザルノ譏ヲ免レ難シ。此事平常ノ價格ナルモノニツキテモ同様ナリ。此譏ヲ免レムガ爲メニハ、收穫ト價格トノ關係ヲ見ルニ就ケテ、今少シク正確ニ近キ平常收穫及ビ平常價格ナルモノヲ算定シタル上ニテ之ヲ行ハザル可ラス。而シテ吾人ハ之ニ關シテハ文學士高田保馬氏ノ研究ハ頗ル信據ス可キヲ見ルモノナルガ、¹⁴⁾ 氏ノ精細ナル計算ニ依ルモ、我國ノ米價ニ關シテハ殆ンドきんぐノ法則ナルモノノ適用ヲ見ルコト能ハザル也。

14) 「米ノ豐凶ト米價」本誌第一卷第二號二五一頁以下

五

右論證スル所ノ如クナルガ故ニ、穀物ノ收穫量ト價格トノ間ニハ、一定歩合ノ法則的關係アリト爲スノ議論ハ、終ニ之ヲ事實ノ上ニ於テ立證スルヲ得可カラズ。Ketch氏ガ一八四六—七五年ニ渉ル期間ニ就キテ獨逸内及ビ諸外國ニ於ケル穀物ノ收穫ト價格トニ關シテ、詳シク講究セシ所ニ依ルモ、其ノ結論ハ左ノ數項ノ如クナルヲ出ヅル能ハザリキ。

(一) 收穫ト價格トノ間ニ法則的ニ常ニ繰返シ表ハルル關係ハ、終ニ之ヲ何レノ國ノ狀態ニ於テモ見出ス能ハズ。

(二) 一般的ニハ、諸國ニ於ケル穀物ノ價格構成ハ其國ノ收穫ノ狀況ニ依リテ著シク影響セララルモノタリ。

(三) 然レドモ、其ノ影響ハ何レノ國ニ在リテモ數字的ニハ之ヲ明示スルヲ得可カラズ。

(四) サレバ此ノ關係ヲ唯ダ數字ノ上ニ於テ示スコトハ、誤謬ヲ招ク所以タラズンバ非ズ。蓋シ年々ノ穀價平均ハ之ヲ曆年ニ依リテ示スモ收穫年度ニ依リテ示スモ、ソハ決シテ好ク收穫ノ實況ニ適應スルモノタラザルヲ以テナリ。而シテ其ノ理由ハ

(五) 各年ニ於ケル價格ノ決定ニ對シテハ其ノ前年及ビ屢々又其ノ前々年ノ收穫并ビニ來年ノ收穫

豫想ガ甚大ナル影響ヲ及ボスコトニ存ス。

(六) 國際的ノ穀物取引ハ穀價ニ對シテ平均的勢力ヲ及ボシ、獨占價格及ビ買占價格等ヲ撲却スルニ力アリ。然レドモ之ハ未ダ以テ各國ニ於ケル穀物ノ價格ヲシテ、全然其國ノ收穫量ト沒交渉ナル迄ニ至ラシムルノ力ヲ有セズ。尤モ年々ニ就キテ見レバ多少其ノ事情ノ認ム可キナキニアラザルモ、之ヲ一般的ニ云フ場合ニハ、ヤハリ各國ノ穀價ハ著シク其國ニ於ケル收穫ノ狀況ニ依リテ影響セラルルヲ否定ス可カラザル也。¹⁵⁾

試ニKremp氏ノ調査セル數字上ノ結果ヲ表示スレバ左ノ如シ。收穫ト價格トノ關係ハ年ニヨリ國ニヨリ區々ニシテ殆ンド何等ノ統一ノ這間ニ認ム可キナキヲ窺フニ足ル可シ。¹⁶⁾

年次	英吉利			佛蘭西			索遜		
	收穫	價格	收穫率	收穫	價格	收穫率	收穫	價格	收穫率
一八四六一七	(+) 8.8	(-) 10.0	(+) 114.1	(+) 10.0	(-) 10.0	(+) 100.0	(+) 10.0	(-) 10.0	(+) 100.0
一八四七—八	(-) 9.8	(-) 9.1	(-) 92.0	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0
一八四八—九	(+) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0
一八四九—五〇	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0
一八五一	(+) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0
一八五二	(+) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0
一八五三	(+) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0
一八五四	(+) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0	(-) 10.0	(-) 10.0	(-) 100.0

15) J. H. Kremp, Ueber den Einfluss des Ernteausfalls auf die Getreidepreise während der Jahre 1846-1875 in den hauptsächlichsten Ländern Europas, Jena 1879, S. 158 ff.
 16) do. S. 87, 218 u. 151

